

## 第93回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成31年1月22日(火) 13時30分～15時40分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】 斎藤美幸、三部吉久、清水潔、田原博人、富田孝志、林由美子  
深澤秀樹

【学内委員】 中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、伊藤宏、若井祐次  
朝賀俊彦、鈴木典夫、佐野孝治、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：塩谷弘康、塘 忠顕

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】 阿部正、川村栄司、櫻井泰典、渡邊博美

【学内委員】 生源寺眞一

5. 議 事

【審議事項】

- (1) 中期目標・中期計画の変更について
- (2) 国家公務員給与法等改正に伴う給与改定に関する取扱いについて
- (3) 役員給与規則の一部改正について
- (4) 就業規則の一部改正について
- (5) 平成31年度福島大学予算編成方針(案)について

【報告事項】

- (1) 平成31年度予算(案)の伝達等について
- (2) 中井プラン2021<改訂版>進捗状況について
- (3) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

【確認事項】

第92回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

- (1) 中期目標・中期計画の変更について

中井学長から、資料1に基づき、中期目標・中期計画の別表等を変更することについて提案があり、農学群食農学類の設置及び環境放射能研究所の共同利用・共同研究拠点認定に伴うものである旨、説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 国家公務員給与法等改正に伴う給与改定に関する取扱いについて

中田理事・副学長から、資料2に基づき、平成30年11月28日に成立し、11月30日に公布された「一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律」に準拠し、役員給与規則及び就業規則を改正する方針について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(3) 役員給与規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料3に基づき、審議事項(2)において承認された給与関係規則等の改正方針に基づく役員給与規則の一部改正について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、審議事項(2)において承認された給与関係規則等の改正方針に基づく平成30年度内に実施する給与改定に係る就業規則の一部改正について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 平成31年度福島大学予算編成方針(案)について

若井理事・事務局長から、資料5に基づき、平成31年度福島大学予算編成方針(案)について提案があり、昨年度予算編成方針からの変更点等について説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、はその議題に関する学外委員からの質問・意見、は大学側の回答等を表す。)

中教審の答申で示されている国の動き等に対応できるよう福島大学内にワーキンググループ等を設置し、今後に向けた長期的な展望、戦略等を検討していくことが必要ではないか。

今後の高等教育の将来に向けた検討の一環として、「2040年に向けた高等教育のグランドデザインを読む」をテーマに大学改革セミナーを開催したり、

I R推進室において、18歳人口減少に伴う大学進学者数の推移等のデータ分析を行うなど、国立大学全体が置かれている状況、課題等について、問題意識の共有を図り、今後に向けた検討を行っている。

## 【報告事項】

### (1) 平成31年度予算(案)の伝達等について

若井理事・事務局長から、資料6に基づき、平成31年度国立大学法人運営費交付金予定額、新しい評価・資源配分の仕組み及び施設整備実施予定事業等の概要報告があった。中井学長から、文部科学省より、本学分の運営費交付金等予定額の伝達が入り次第、経営協議会委員へ報告する旨、発言があった。

新しい評価・資源配分の仕組み等は、大学に大きな影響を及ぼしかねない課題であるため、今後、どのように対応していくべきかしっかり検討していく必要がある。また、福島大学で実施している、教育に特化した多様な取り組みを活かし、他大学の参考になるような指標等を検討してほしい。

国立大学法人における3類型と共通指標との関連性、教育を中心とする大学における客観的なKPI等について、評価のあり方を今後十分に検討していく必要がある。

福島大学が東日本大震災以降取り組んできた「ふくしま未来学」、IER等の活動を通して、学生がどのように理解し、学んでいるか等の観点から、新しい指標を作り出すことができるのではないかと。

学生の視点を通して、学生自身が成長したことを実感し、自信を持って社会に出ていけるかを基準にした、大学独自の評価指標を作ることも重要ではないかと。今後も福島大学の特色ある取り組み、特徴的な教育内容を広く発信していくべきである。

今後は、評価・配分に関する抜本的な改革が進み、教育に関する内容も評価の対象となるため、各大学が危機感を持ち、新しい評価指標を検討することが重要である。

### (2) 中井プラン2021<改訂版>進捗状況について

中井学長から、資料7に基づき、中井プラン2021<改訂版>進捗状況について、各担当より説明するとの発言があり、各理事・副学長から、各項目の取り組み内容

及び達成状況等について報告があった。

70周年記念キャッチフレーズ「あなたの学びが地域の力になる」を具現化するために、福島大学の魅力ある学び等を効果的な形で情報発信していくことが重要である。

70周年記念誌等を通して、福島大学における多様な取り組みを、広く紹介していく予定である。

アクティブラーニングでは、学生の資質をいかに伸ばすことができるかが重要である。学生にヒントを与え、学生にやる気を起こさせること、また、地域の方などとの積極的な関わりを通して学ぶこと等も、学生の成長とつながり、教育成果もあがるのではないかと期待している。

大学として、学生の力を伸ばし、自分たちでやれる力、総合的な力をアシストしていくことに重点をおいて取り組んでいきたい。